



がんと共に生きる時代

がんになったら人生は終わりという時代ではありません。医療の進歩は目覚ましく、正しい知識を持ち、治療しながら、自分らしく生きていくことが大切です。そのためにも、早期発見は重要です。

肺がん・結核検診

【問合せ】保健課

☎7733-6811

肺がんとは

肺がんは、気管支や肺胞の細胞ががん化する病気です。早期の肺がんは、症状がほとんど現れません。がんが進行すると、咳や痰、息切れなどの症状が現れてきます。ただし、咳や痰などの症状は、肺がん以外の病気でも現れる症状です。複数の症状が現れたり、長く続く場合は早めに医療機関を受診することが大切です。

喫煙との関係

肺がんの代表的な原因は喫煙です。たばこの煙には多くの発がん性物質が含まれています。喫煙者は、非喫煙者に比べて肺がんを発症する危険性が4〜5倍も高くなるという報告があります。喫煙歴がある人は、症

状がなくても注意が必要です。

肺がん・結核検診を受けましょう

肺がん・結核検診は、40歳以上を対象に、肺全体の胸部レントゲン検査を行います。

問診の結果、次に該当する人には、喀痰検査を勧めています。

① 50歳以上で喫煙指数（1日の喫煙本数×年数）が600以上

② 重クロム酸や石綿などを取り扱う仕事や鉱業などに従事していた

喀痰検査は、肺の入り口にある太い気管支にできるがんを見つけやすいといわれています。①や②に該当する人は、胸部レントゲン検査と併せて喀痰検査を受診しましょう。

住民検診における肺がん・結核検診結果

年度（平成）	28	29	30
受診者数（人）	7,526	7,216	7,241
要精検者数（人）	160	168	144
精検受診率（%）	89.3	89.3	89.9
がん発見数（人）	3	3	6

たばことCOPD（慢性閉塞性肺疾患）

発症と現状

COPDは、たばこの煙などの有害物質を吸い続けることで気管支や肺に慢性的な炎症が起こり、機能を低下させる病気です、今後急速に増加すると心配されています。

粉じんなども発症の原因となりますが、最大の原因は喫煙です。別名「たばこ病」とも呼ばれています。患者の約90%が喫煙者であるというデータもあります。

残念ながら完治する治療法は確立されていませんが、早期に発見し治療することで、病状の進行を遅らせることができます。

症状

咳や痰、体を動かした時に息切れを感じたりします。「歳のせい」などと思いがちですが、病気が進行すると少し歩くだけでも息切れを起こし、酸素吸入が常に必要になる場合もあります。

予防

最大の予防法は、喫煙をやめることです。市内には、健康保険が適応される禁煙治療のできる医療機関があります。禁煙したい人は、まずは医師にご相談ください。詳しくは、保健課にお問い合わせください。

早期発見が重要です

がんは早期に発見し、適切な治療を行うことが重要です。積極的にがん検診を受けましょう。

自分ががんになったら…

がんと共に生きるには、医学的治療のみならず、本人の心構えが大切です。一人で抱え込まない、周囲に相談する、記録しておくことなどが大切です。

悩んだときは…

まずは、治療する病院に相談してみましょう。県内には、がん相談支援センターが設置されています。不安なことや気になることは、保健課にご相談ください。

